

平成二十三年一月二十八日提出  
質問 第二一六号

菅直人内閣総理大臣による外交演説「歴史の分水嶺に立つ日本外交」に関する質問主意書

提出者 浅野 貴博

菅直人内閣総理大臣による外交演説「歴史の分水嶺に立つ日本外交」に関する質問主意書

本年一月二十日、菅直人内閣総理大臣は、東京都内のホテルで「歴史の分水嶺に立つ日本外交」と題する外交演説（以下、「演説」とする。）を行っている。右を踏まえ、質問する。

一 今回菅総理が「演説」を行つた理由、またはその意義について説明されたい。

二 「演説」の起案、作成を担当した政府職員の官職氏名を明らかにされたい。

三 鳩山由紀夫前内閣総理大臣、そして菅総理自身も、我が国の外交方針として、「東アジア共同体」という概念を打ち出していたと承知するが、右はどのようなものを目指す概念であるのか、改めて説明されたい。

四 「演説」の中に「東アジア共同体」という言葉は一度も用いられていないと承知するが、それはなぜか。右は、菅直人内閣として「東アジア共同体」という考えを今後採用せず、我が国の外交方針を転換したものと理解してよいか。

右質問する。